

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

小児科 (2005.09) 別冊 数値からみる小児の成長と発達:14～15.

【数値から見る小児の成長と発達 表で見る身体の基準値】
肥満度

伊藤善也、加藤則子

● 肥満度

伊藤善也 *Yoshiya ITO*, 加藤則子* *Noriko KATO*

北海道赤十字看護大学, *国立保健医療科学院

小児の身体発育を評価するにあたっては、計測項目相互の関連をみるような総合的判断が重要である。身長に対する体重のバランスをみて体格を判定する基準が小児保健や学校保健の場においては必要となる。ここでは、標準身長体重曲線を基にした肥満度判定曲線を紹介する。

幼児期の基準は、平成12年に厚生省（当時）が行った乳幼児身体発育調査結果を基に作成された¹⁾。1歳から就学前までの、身長70 cm～118 cmの範囲での身長別体重の中央値を男女別に2次

曲線で回帰して標準身長体重曲線を求めた。これに肥満度+30%、+20%、+15%、-15%、-20%を表す曲線を加えた判定図（図5）が母子健康手帳に掲載されている。

学童期以降の基準は、平成12年度学校保健統計調査報告書²⁾に掲載されている5歳から17歳までの身長体重相関表を用いて、各身長における体重の中央値を求めた。男子については101～184 cm、女子については101～171 cmの範囲で、身長領域を3つに分けて3次曲線による回帰を行い、標準

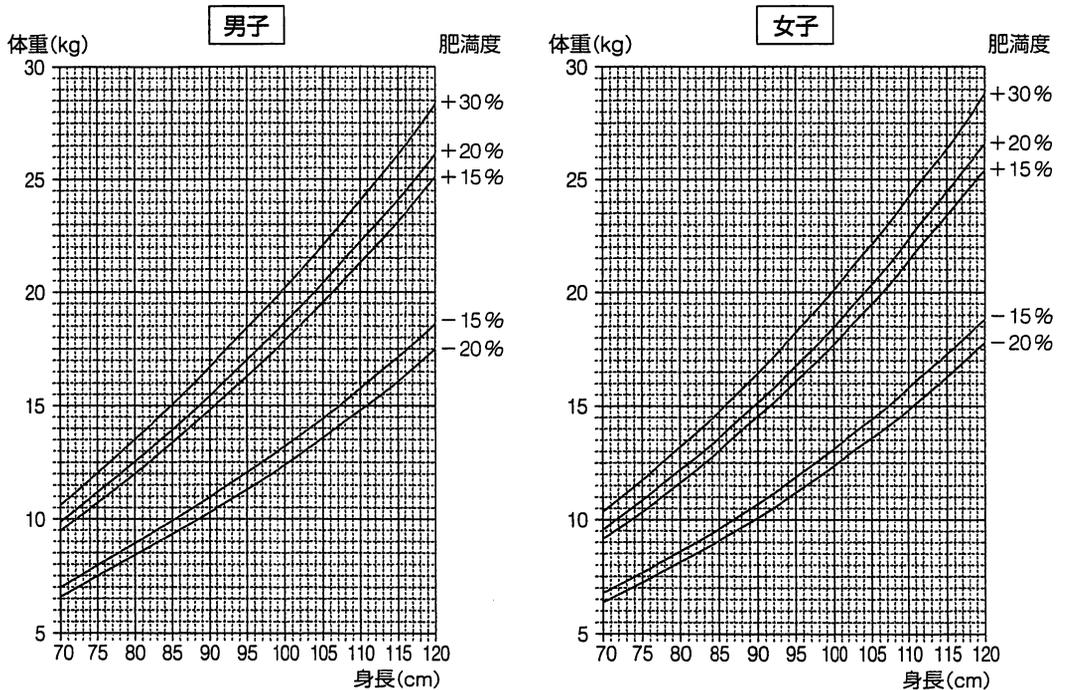


図5 幼児の身長体重曲線（文献1より引用）

区分	呼称
① +30%以上	ふとりすぎ
② +20%以上 +30%未満	ややふとりすぎ
③ +15%以上 +20%未満	ふとりぎみ
④ -15%超 +15%未満	ふつう
⑤ -20%超 -15%以下	やせ
⑥ -20%以下	やせすぎ

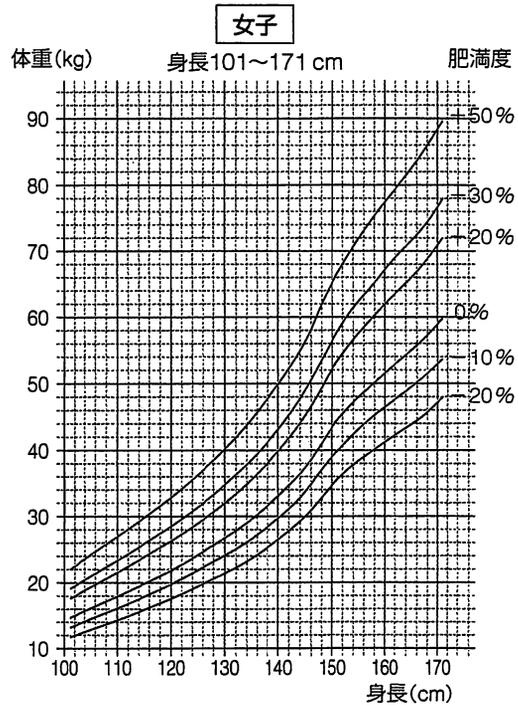
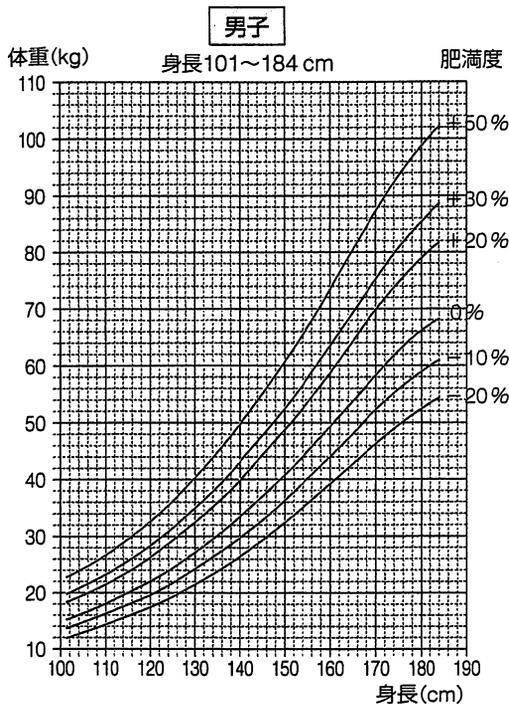


図6 肥満度判定曲線（平成12年度学校保健統計調査報告書より作成）

身長体重曲線を求めた。これに肥満度+50%，+30%，+20%，-10%，-20%を表す曲線を加えて肥満度判定曲線とした（図6）³⁾。

肥満傾向を早期にとらえ，早期に介入することで，成人期の生活習慣病などを予防していきける。その一歩として，小児期に肥満度判定曲線を用いて体格を経時的に評価していくことが勧められる。肥満度判定曲線は使い方がさほど困難でない。幼児期においては小児科医や保健師などによって活用されることが望まれる。学童期以降においては，小児科医もしくは学校医あるいは養護教諭などが児童・生徒に使い方を指導すれば，彼らが自分の体格を自身で評価することも可能である。

身長別の標準体重は年齢によって異なるため，これを年齢毎の基準に照らし合わせて詳細に評価する必要があるという議論もある⁴⁾。

【文献】

- 1) 加藤則子，奥野晃正，高石昌弘：平成12年乳幼児身体発育調査結果について，小児保健研究 60(6)：707-720，2001
- 2) 文部科学省：平成12年度学校保健統計調査報告書，2001
- 3) 伊藤善也，藤枝憲二：肥満，小児科診療 66(11)：1913-1919，2003
- 4) 山崎公恵ほか：1990年版性別年齢別身長別体重の検討，日本小児科学会雑誌 98：96-102，1994